

2024年1月28日 No.3704

先週の講壇から

” 本当に自由になる！ ”

ヨハネによる福音書 第8章 31節～38節

聖句「わたしの言葉にとどまるならば、…あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする。」(8:31,32)

1. 《真理と自由》 世界中の多くの大学が「真理はあなたたちを自由にする」をスクールモットーに掲げています。大抵は、ラテン語や新約聖書のギリシア語で刻んであります。東京の国立国会図書館には、戦前戦中の反省と戦後の希望から「真理はわれらを自由にする」と刻まれています。米国のスパイ組織、中央情報局（CIA）の礎石にも、この聖句が刻まれていると言うから驚きです。
2. 《良心の働き》 新島襄の語る「自由」は聖書の言う「自由」です。19世紀米国東部の最良のキリスト信仰の環境から得た「リバティ」と「フリーダム」です。帰国後10年目に安中で行なった講演「文明を組成する四大元素」の中で、新島は「智識、財産、自由、良心の働きを養生すること」と述べています。「財産」を蓄えることも大切ですが、それだけだと「富国強兵」「経済成長」を求めて敗北するのみです。「智識」を求めただけなら、謀略や暗殺も厭わぬCIAと同じです。「養生」とは、単に「休ませる」ことではなく「生きて働いている状態」を言います。「自由」と「良心」が生きて働いていることが大切なのです。しかも、新島の言う「良心」は「信仰」と同義語です（テモテへの手紙一1章19節）。

《自由と真理》 次に「自由」は如何にして働くか。新島の「自由」は「真理」を尋ね求めて闘うための「自由」、この世の力に抗うための「自由」です。誰かの奴隷、何かの奴隷にならないことです。自由気儘に生きているつもりでも、罪を犯す者は「罪の奴隷」です。「自分の生きたいように生きる」と思っている人も、この世の財産、権力、快樂に縛られているのです。自由のために闘っていないからです。即ち、そこには「真理」が宿っていない。真理が私たちを自由にするのです。真理とは、それ無くしては生きている価値を失う何かです。主の御言葉（人を愛すること）に留まるためには、常に闘いがあり、そのために苦しみ悲しみを味わうこともあるのです。新島が深井英五に贈ったとされる「寒梅詩」に「真理は寒梅の似し。敢えて風雪を侵して開く」とあります。

朝日研一朗牧師